



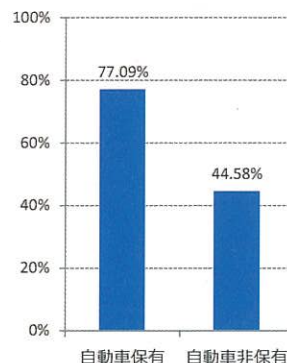
群馬県交通まちづくり戦略(仮称)の策定とオープンハウスの実施について

群馬県 県土整備部 都市計画課

「おっ!!まっちい～」の特集でも、これまで2回ほどパーソントリップ調査(「人の動き」実態調査)について取り上げてきましたが、そのデータを基に平成29年度中に策定することとしていた計画『群馬県交通まちづくり戦略(仮称)』がまとまって来ました。今回は計画の概要や、計画策定にあたって実施したオープンハウスの実施状況についてご紹介します。

■ 群馬県交通まちづくり戦略(仮称)とは

ぐんま“まちづくり”ビジョンでは、まちのまとまりをつくり、それらを結び多様な移動手段を確保することで、持続可能な社会を実現することを目指しています。群馬県では自動車を移動手段とする基盤が整いつつある一方で、高齢者や学生などの「自動車を使えない県民」の移動手段がなくなっていくことが懸念されます。そこで、多様な移動手段のうち、「自動車以外の移動手段」も選択できる、誰にでも暮らしやすい社会の実現を目指すための実行計画として、『群馬県交通まちづくり戦略(仮称)』を策定します。



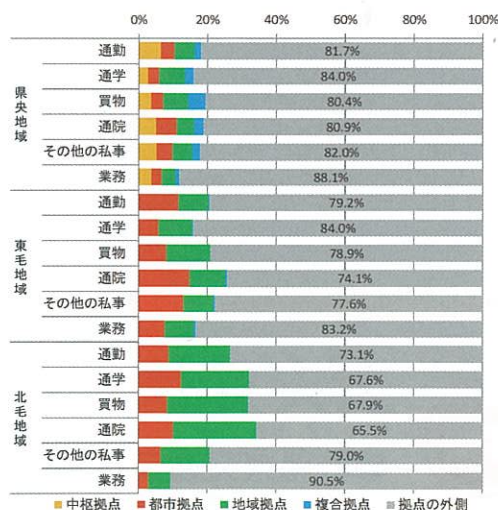
■ 群馬県の課題

自動車を持たない高齢者の外出率は自動車を持つ高齢者に比べて30%以上低く、外出したくてもできない状況にあると考えられます。外出機会が減少することは、健康へも影響し、医療費負担の増加をもたらす可能性が懸念されます。県内のバス路線の多くは1時間に1本未満の低い運行頻度となっていることから、利用したくても利用できない現状もあります。

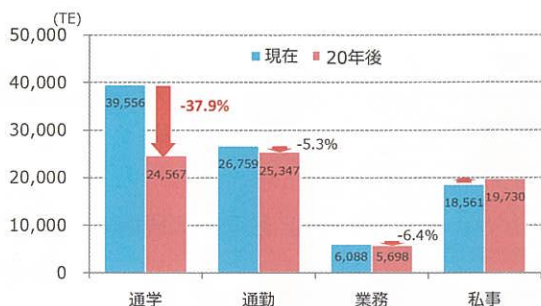
また、群馬県では*拠点内の活動が2割程度しかなく、多くの活動(人の移動)が拠点の外側で行われている状態にあり、低密度なまちが広がっていることが、公共交通の運行を非効率にしていると考えられます。

さらに、現状のまま少子化が進んだ場合、鉄道利用割合の多くを占める通学利用が大きく減少することが見込まれており、その結果として、鉄道では一部路線が存続の危機になる恐れがあります。

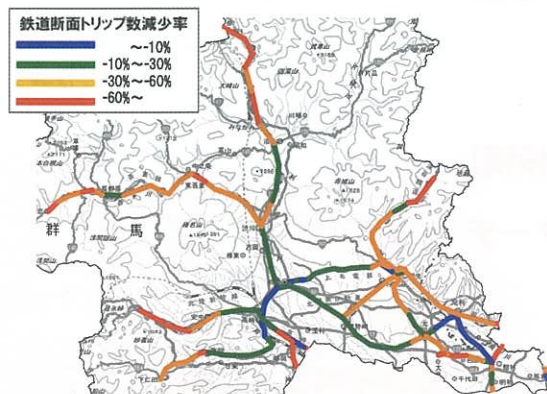
このように、「自動車を使えない県民」の移動手段がなくなっていくことが群馬県の大きな課題となっています。



目的別拠点での活動場所の内訳



現在と将来の目的別鉄道トリップ数の推移



主要断面での鉄道利用トリップ数の推移



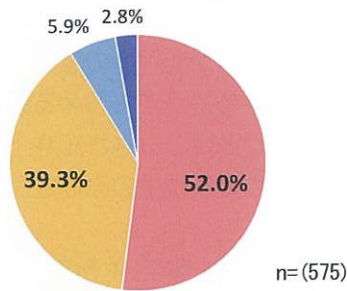
■ オープンハウスの実施

このような課題への対応方針を検討するにあたり、県民の意見を聴き取るために県内10箇所の病院や商業施設等でオープンハウスを開催しました。オープンハウスとは、パネル展示やリーフレット等の資料配布を通じて、計画検討過程にある情報をわかりやすく公開する場のことです。多くの人の前で発言することが苦手な方でも、計画策定担当者との気軽に直接的な対話を通じて、計画に関する情報を得られ、意見を伝えやすいという特長があります。今回、ぐんまちゃんの活躍もあり、のべ832人の参加者のみなさまより、貴重なご意見をいただくことができました。

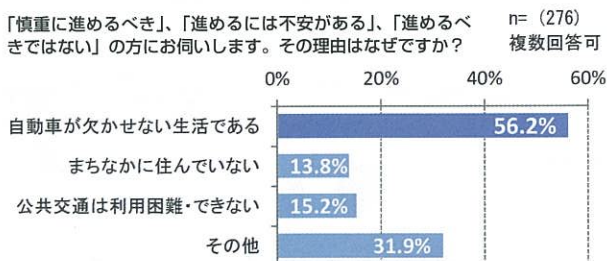


イオンモール太田でのオープンハウス

駅周辺などに「まちのまとまり」を誘導したり、過度な自動車依存から公共交通利用を促進したりすることで、暮らしやすい社会を実現させることについて、あなたの考えに近いものを教えてください。



- 大いに進めて欲しい
- 慎重に進めるべき
- 進めるには不安がある
- 進めるべきではない



オープンデータ化による路線バスの経路検索

オープンハウスの展示パネル等は群馬県総合都市交通計画協議会ホームページからご覧になれます。
<http://www.kendoseibi.pref.gunma.jp/section/toshikeikaku/gunma-pt/openhouse.html>

日時	場所	来場者数	アンケート回答数	
10月24日(火)	9:00~12:00	富岡総合病院	55	52
10月25日(水)	10:00~17:00	けやきウオーク前橋	92	85
10月29日(日)	10:00~17:00	イオンモール太田	327	195
11月1日(水)	9:00~12:00	桐生厚生総合病院	46	39
11月2日(木)	10:00~17:00	ベルク館林	51	38
11月5日(日)	10:00~17:00	ベシア沼田モール	27	27
11月6日(月)	9:00~12:00	原町赤十字病院	40	26
11月7日(火)	10:00~17:00	ベシア吾妻	49	40
11月12日(日)	10:00~17:00	イオンモール高崎	112	77
11月13日(月)	9:00~12:00	利根中央病院	33	21
合計	10会場	832	600	

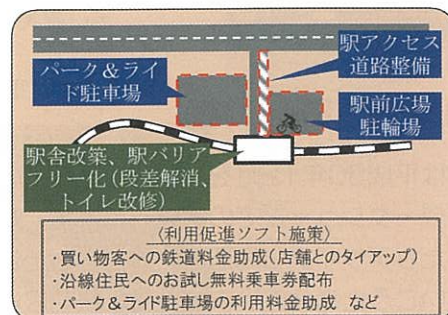
オープンハウス実施状況

会場で実施したアンケートでは、駅周辺などに「まちのまとまり」を誘導したり、過度な自動車依存から公共交通利用を促進することについて「大いに進めて欲しい」という意見が半数以上を占める結果となり、取り組みの必要性は概ね理解されているものと考えられます。一方で「自動車が欠かせない生活である」という認識の方も多くいることから、公共交通を利用できる環境づくりに戦略的に取り組みつつ、県民の意識変化を促していくことが重要と考えられます。

■ 施策展開の方向性

群馬県の課題や県民意見を踏まえて、施策展開の方向性を整理しました。まず、鉄道・バスが運行されていない地域では、地域的な暮らしの足を確保するため、タクシーやNPO法人等の相乗りサービスなど新たな移動手段の導入を検討し、システム構築や社会実験を通じて、県が導入支援を行っていきます。

また、鉄道・バスが運行されている地域では、路線バスも経路検索が可能となる公共交通情報のオープンデータ化、パークアンドライド駐車場やアクセス道路の整備、鉄道沿線住民を対象としたモビリティマネジメント等に取り組んでいくとともに、鉄道沿線地域では、これらの施策をパッケージ化しながら一体的に推進していくことを予定しています。



沿線単位でのパッケージ的な施策推進

*「拠点」… 中心市街地や役場周辺の地域